

知の頂点に向かって加速！東大プラン

(実施期間：平成 22～26 年度)

実施機関：東京大学（総括責任者：五神 真）

プロジェクトの概要

(1) 新規養成女性研究者の採用計画

計画に則った採用を行うことにより、5年目の在籍女性研究者(比率)を、理学系で49名(8.7%)、工学系で59名(6.9%)、農学系で32名(8.7%)とする。

(2) 女性研究者養成のための取組内容

新規養成女性研究者に限らず、女性研究者が独立して研究が遂行できる環境を整備するとともに、出産・育児の際の研究支援員の雇用等を積極的に実施する。

(3) 期待される効果

世界的にもトップレベルに位置する東京大学において、女性研究者を加速度的に養成・輩出することにより、広い範囲の女性研究者の増加とレベルアップに寄与できる。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	女性研究者支援システム改革	取組の内容	実施体制	今後の進め方
A	b	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

学長裁量ポストを活用した女性限定公募の実施により、理・工・農学系分野の女性教員の採用を加速し、所期の計画を上回る女性教員を採用したこと、また、上位職への積極的採用及び登用を進めたことは評価できる。今後は、目標とした機関全体の女性研究者比率を達成すべく、全学的な意識の醸成に努め、効果的な取組を継続して実施していくことを期待する。

- ・ **目標達成度**：新規養成女性研究者の採用は理・工・農学系のいずれも所期の目標を上回り達成し、また、上位職による採用を進めたことは評価できる。しかしながら、女性研究者比率は農学系を除き所期の目標を達成できておらず、今後は特定有期雇用女性研究者の採用に加え、より積極的に女性テニユア教員の採用を進めることを期待する。
- ・ **女性研究者支援システム改革**：学長裁量ポストを活用した女性限定公募を実施することにより、女性教員の採用や昇任を増やそうという気運が全学的に高まり、部局独自の女性限定公募の実施や女性教員の昇任の推進に繋がったことは評価できる。
- ・ **取組の内容**：女性限定公募において分野や職位を幅広く設定する工夫により応募者の質と量を確保し、数多くの優秀な女性教員の採用を実現したことは評価できる。さらに、自主経費を充当し、自主的な取組を積極的に実施したことは評価できる。

- **実施体制**：学長以下機関執行部の強いリーダーシップの下、各部局において女性教員採用計画が明確化され、女性教員が少ない分野で採用が推進されことは評価できる。
- **今後の進め方**：学長の強いリーダーシップの下、十分な予算を確保し、学長室直轄の男女共同参画室が取組の継続を担保し、特定有期雇用女性研究者の採用のみならず、女性教員の採用及び養成に取り組んでいることは評価できる。若手のみならず、上位職階の女性教員の育成のための新たな取組を期待する。